

症例 2. 65才男 血友病 A (FⅧ < 1%) 右膝伸展強直、右尖足拘縮、左膝屈曲拘縮のため歩行は高度に障害されていた。

いずれの症例も左膝関節に total condyler type の人工膝関節、右足関節に奈良医大式人工足関節を用いての置換術を行なった。

手術に際しては、補充療法の経済性、副作用発現頻度の半減などを考慮して、2組の手術チームを編成、2関節の置換を同時に実施した。

術後の経過は良好で、歩容、歩行能力とも著明に改善し、ともに原職に復帰している。

今回は、2関節同時手術に加えて、high concentrated factor Ⅷの使用による1日1回補充法、hemo-dilution法の応用もあわせ試み、満足すべき成果を上げることができたが、面積の大きな人工膝関節置換術後の止血にはなお困難性があり、手術テクニックの面でも、さらに検討を要する。

## 血友病患者の家庭注射療法

九大小児科 宮崎 澄雄

病院から遠隔の土地に住み関節出血が頻発する血友病患者4例につき自宅での抗血友病製剤注射療法を試みているので、その中間成績を報告する。

対象患者は表に示すごとく7才から15才までの血友病Aの患児で、いずれも当科での治療期間が2年以上になるものである。自宅注射に切替えてからの観察期間は5カ月から12カ月であり、手技者は両親のいずれかである。抗血友病製剤の使用本数は平均して月に1ないし2本であり、いずれも早期止血を目的とした。

home infusion を実施してから、4例中2例では休学日数が減少している。また本人の情緒的安定がみられ、通院による経済的負担も軽減している。法律的な問題や事故対策が未解決であるが、通院困難な血友病患児には自宅注射療法は今后とも検討されるべきであろう。

表 血友病患者の自宅注射療法

	年令	期間	手技者	総回数	総本数	目的	休学日数 (月平均)	
S . A .	7才	12カ月	母	10	15	早期止血	前5	後3
T . S .	15	8	父	5	6	"	6	4
A . Y .	10	10	父	4	4	"	2	2
T . T .	12	5	母	3	6	"	1	1

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

病院から遠隔の土地に住み関節出血が頻発する血友病患者 4 例につき自宅での抗血友病製剤注射療法を試みているので、その中間成績を報告する。

対象患者は表に示すごとく 7 才から 15 才までの血友病 A の患児で、いずれも当科での治療期間が 2 年以上になるものである。自宅注射に切替えてからの観察期間は 5 ヶ月から 12 ヶ月であり、手技者は両親のいずれかである。抗血友病製剤の使用本数は平均して月に 1 ないし 2 本であり、いずれも早期止血を目的とした。